

### 萩ジオパーク：萩城下町エリア

萩エリアは、3つの特徴的な地質活動期によって形成された。1億年前から3,000万年前まで、アムール海プレートの下でマグマの大きな隆起があった。20年前から800万年かけて海底のマグマがゆっくりと出現した。200万年前から8800年前までは、萩周辺は島弧マグマによって形成された。地震の多い日本の基準に照らしても、萩は火山の激しい活動の歴史が長い。

約100万～130万年前までの間に、一連の火山噴火によって、青野火山群が形成された。また野坂山を形成した噴火により、川が堰き止められて巨大な湖が形成された。その後、湖の堤防が決壊して北の川に流れ出し、現在の阿武川が形成された。湖底に溜まった泥は次第に下流に流れ、海底の砂が波に押し上げられて、川と海が会う三角州を形成していった。

萩城下町が築かれたのは、この泥と砂の三角州の上であった。萩城の築城に使われた石材の多くは、笠山の火成岩から切り出されたものである。石材職人が巧みに採掘した安山岩は、小舟で湾を渡って城址に運ばれた。上陸後は、指月山の北東側にある現場でさらに削られ、城壁の建築に使われた。この過程の途中で捨てられた岩の多くは、笠山麓の海岸沿いで現在も見ることができる。

Google マップのリンクは[こちら](#)